

## 当院にて大腸癌手術治療を受けられた患者さんへ

大腸・肛門外科では癌、炎症性腸疾患を初めとする幅広い分野において、大腸疾患の臨床的・基礎的研究を行っています。

【研究課題】 消化器組織細胞の培養法確立と遺伝子変異を基にした増殖因子感受性の検討（課題番号 3553-(8)）

### 【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学医学部附属病院  
研究責任者 大腸肛門外科 教授 石原 聡一郎  
担当業務 研究試料，データの収集・解析

### 【共同研究機関】

共同研究施設 慶應義塾大学医学部  
研究者 慶應義塾大学医学部消化器内科 准教授 佐藤 俊朗  
担当業務 データの収集・解析

共同研究施設 大塚製薬  
研究者 研究員 伊達昌一  
担当業務 データの解析

共同研究施設 理化学研究所  
研究者 ユニットリーダー 二階堂 愛  
担当業務 データの解析

### 【研究期間】

平成 24 年 12 月より平成 34 年 12 月

### 【対象となる方】

平成 24 年 12 月 12 日 ～ 現在の間

上記研究課題にご協力頂いた患者さん

### 【研究の目的】

近年、世界で初めて正常腸管上皮細胞培養が確立されました。この培養法は、食道・胃・肝臓・胆嚢・膵臓などの正常および腫瘍性の上皮細胞、更には炎症性腸疾患にも応用でき、永続的な培養が可能です。また、腫瘍の遺伝子変異の一部は抗がん剤への反応や、腫瘍の性質に大きく関わっています。この研究は遺伝子変異と消化器癌細胞の培養条件をはじめとした腫瘍の性質に相関があるかについて追究するものです。この研究によって、腫瘍の悪性度や予後、炎症性腸疾患の原因に関係する遺伝子異常や性質を同定し、新たな治療ターゲットの発見や創薬につながることを期待されます。

**【研究の方法】**

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学医学部附属病院長の許可を受けて実施するものです。

既に樹立を行った組織細胞を用い、遺伝子変異解析、がんに関係する遺伝子の機能解析、マウス移植モデルによる抗がん剤の治療効果の評価などに使用させていただきます。また、消化器がん研究の発展のため、共同研究を締結した他施設（慶應義塾大学医学部、大塚製薬、理化学研究所）への解析依頼、分譲を行う場合もあります。

更に、ご提供いただいた消化器組織腫瘍組織から培養した組織細胞を、共同研究施設の慶應義塾大学医学部内の組織バンクにて保管・管理し、一定の条件を満たした他の国内外の研究機関（海外研究機関、民間企業を含む）に分譲し、また先行研究で解析したゲノム情報を公開データベースへの登録を行うことで、国内外の消化器組織腫瘍の研究の一層の発展を目指す計画です。

**【個人情報の保護】**

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

あなたの手術標本や情報・検査結果等は、解析する前に氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当研究室において研究責任者である石原聡一郎が個人情報管理担当者のみ使用できるパスワードロックをかけたパソコンで厳重に保管します。ただし、必要な場合には、当研究室においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、結果をあなたにお知らせすることもできます。

この研究のためにご自分（あるいはご家族）のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局までご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

この研究に関する費用は、慶應義塾大学医学部消化器内科の運営費から支出されています。

○本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

尚、あなたへの謝金はございません。

**【問い合わせ先】**

東京大学医学部附属病院大腸肛門外科 教授 石原 聡一郎

研究連絡担当者 石丸 和寛

住所：東京都文京区本郷7-3-1 東大附属病院 腫瘍・血管外科医局

電話：03-3815-5411（内線 33246） FAX：03-3811-6822